1　石狩のすがた

●地勢

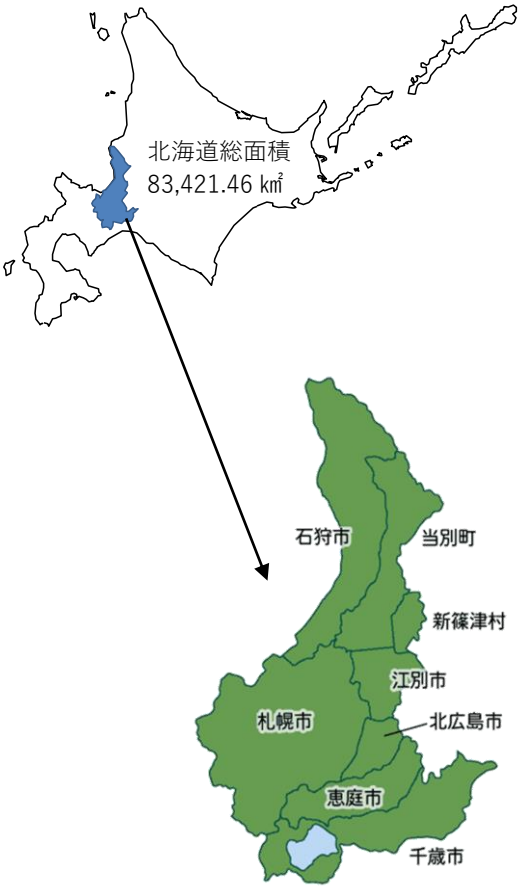
石狩管内の総面積は 3,540.06 ㎢で、鳥取県とほぼ同じ面積です。

石狩の北西部は、約 72 ㎞にわたり日本海に面し、北端の増毛火山群に属する高山へと続いています。この一帯は、暑寒別天売焼尻国定公園として指定され、変化と景観に富んだ海岸線は、日本海オロロンラインとよばれ、優れた観光レクリエーション地帯として注目されています。

南西部は恵庭岳を主峰とする山岳地帯と、エメラルドグリーンに輝く支笏湖が支笏洞爺国立公園を形成しており、原始林に囲まれた湖とその周辺山岳の景観は、まさに北海道らしいダイナミックさと神秘的魅力にあふれています。

中央部は、日本三大河川の一つである石狩川が東西に走り、その流域には広大かつ肥沃な石狩平野が広がっています。また、この地域は稲作の中核地帯であると同時に北海道の中枢機能を備える道都札幌市を中心に大都市圏を形成しています。

土壌は、石狩川流域の肥沃な沖積土壌、南部の樽前系火山灰土、篠津の泥炭土に大別され、また当別町から石狩市、江別市野幌から北広島市にかけての強酸性重粘土壌、恵庭市南部から千歳市にかけては、不良性火山性土などの不良土壌があります。



〈比較してみよう！〉

★石狩管内の面積≒鳥取県の面積

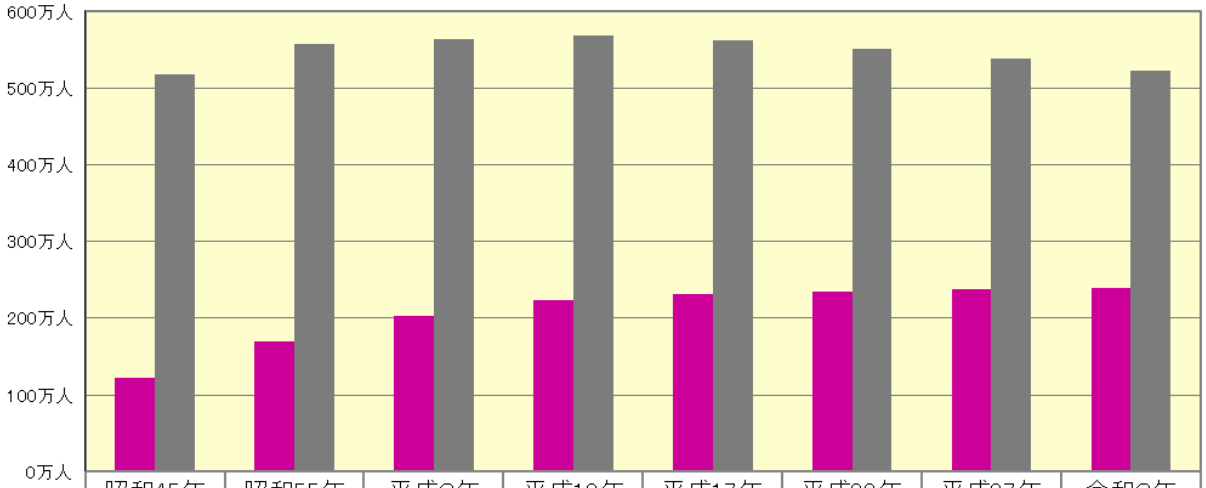
(3,540.06 ㎢)　　(3,507.03 ㎢)

●人口

管内の人口は、令和 2 年の国勢調査では 2,396,732 人で、北海道の人口が減少している中で増加し続けており、また、道内の総合振興局・振興局別では最も多く全道の約 46%を占めています。

市町村別に平成 27 年と令和 2 年の国勢調査で増減を比較すると、札幌市・江別市・千歳市・恵庭市の 4 市は増加しましたが、他の 4 市町村は減少しています。

■人口の推移（国勢調査）



	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
■管内計	1,218,050人	1,694,196人	2,024,041人	2,242,564人	2,310,015人	2,342,338人	2,375,449人	2,396,732人
■北海道計	5,184,287人	5,575,989人	5,643,647人	5,683,062人	5,627,737人	5,506,419人	5,381,733人	5,224,614人

●自然

管内は森林、山岳、湖沼、海岸線、高山植物など自然美に富んだ景勝地が多く、これらの多くは支笏洞爺国立公園や、暑寒別天売焼尻国定公園、道立自然公園野幌森林公園に指定され、自然景観を保護しながら、国民の保健休養の場等として広く利用されています。

●気象

管内は、四季の変化に富んでおり、また、広域にわたるので、気象は日本海側の地域と太平洋に近い南側の地域で差が現れます。

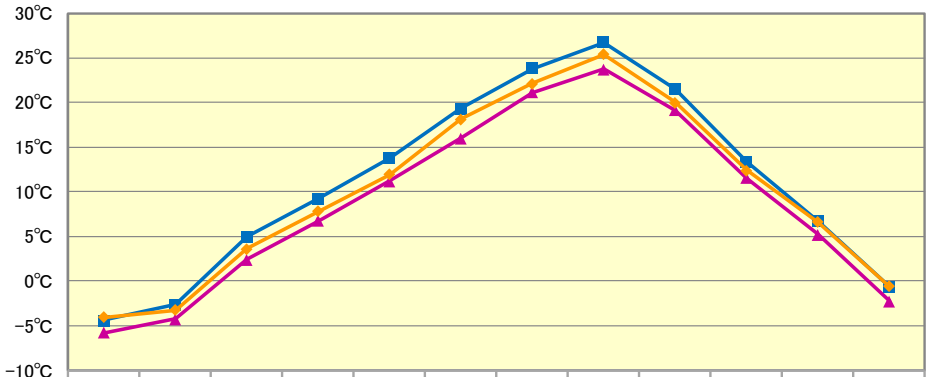
春は、晴れる日が多くなります。夏は、北側の地域は晴れやすく、南側の地域では曇りや雨の日が多くなります。秋は天気が変わりやすく、冬は主に北側の地域で雪の日が多くなります。

一年を通した平均気温は冷涼であり、冬は最高気温が 0 度未満の「真冬日」となる日が半分以上を占める一方、夏は最高気温が 30℃以上となる「真夏日」があります。

支笏湖湖畔

道立自然公園野幌森林公園内の北海道開拓の村（札幌市）

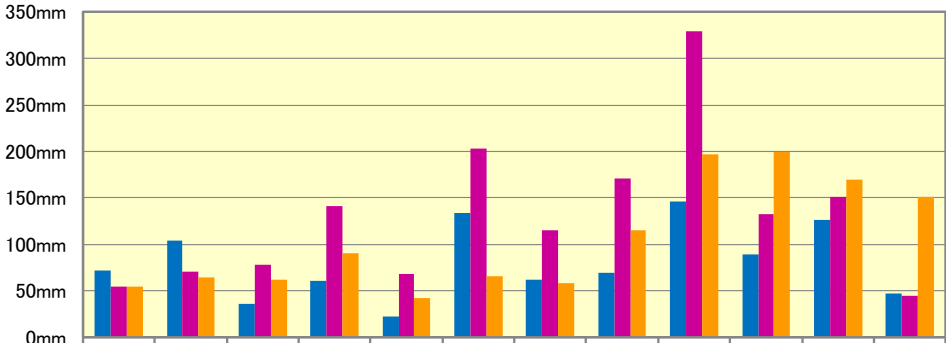
■月別平均気温（令和 5 年）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
札幌市	-4.4	-2.7	4.9	9.2	13.8	19.3	23.8	26.7	21.5	13.3	6.7	-0.7
千歳市(支笏湖畔)	-5.8	-4.3	2.4	6.7	11.2	16	21.1	23.7	19.1	11.5	5.2	-2.3
石狩市（浜益）	-4.1	-3.3	3.6	7.8	11.9	18.1	22.1	25.4	20	12.4	6.6	-0.6

（石狩振興局地域創生部地域政策課調べ）

■月別降水量（令和 5 年）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
札幌市	71.5	104	35.5	61	21.5	133.5	61.5	69.5	146	88.5	126.5	47
千歳市(支笏湖畔)	54.5	71	78	141	67.5	203	115	171	329	132.5	150.5	44
石狩市（浜益）	54	64.5	62	90.5	41.5	65	58.5	115.5	196.5	199.5	170	150.5

（石狩振興局地域創生部地域政策課調べ）

※上記数値については、札幌市は札幌管区気象台、千歳市は支笏湖畔地域気象観測所、石狩市は浜益地域気象観測所の値を使用した